しまねの社会教育だより

vol.30
島根県立西部社会教育研修センター
島根県立東部社会教育研修センター

photo 隠岐の島町　西郷小学校と大久地区との地域学校協働活動「徒歩旅行」

特集 体験活動に新しい風を！

～体験活動が子どもをかえる・地域をかえる～

2020.
2月号

contents

■「しまねの社会教育フォーラム2019」
■ 学びがチカラに !!　〔益田市教育委員会　豊田 浩司さん〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介　〔奥出雲町・西ノ島町〕
■ 親学の今!　〔出雲市〕

特集 体験活動に新しい風を！

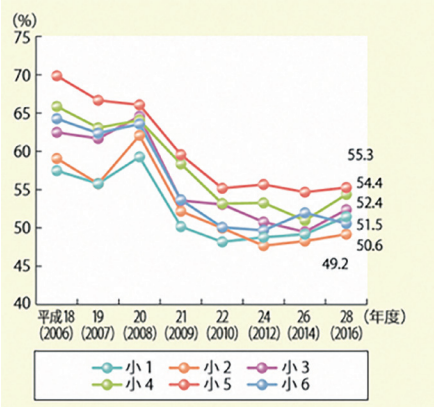
体験活動の充実は人づくりの原点

子どもの「生きる力」を育む上で、自然体験をはじめ文化・芸術や科学に直接触れる体験的な活動が重要です。社会で求められるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働する能力を育むためには、様々な体験活動が不可欠です。

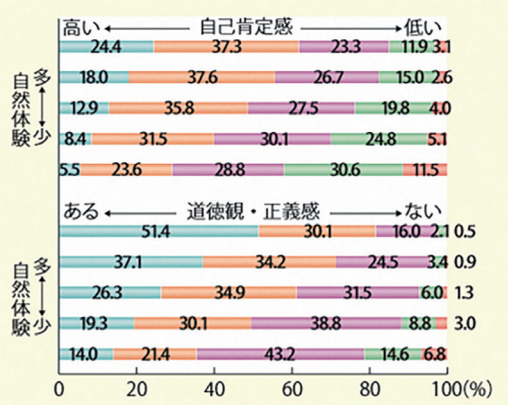
近年、学校以外の団体が行う自然体験活動への参加率は50％程度にとどまっています。【図１】一方、自然体験活動に多く参加した子どもの方が、自己肯定感や道徳観・正義感が高い傾向があることがうかがえます。【図２】このことから、国や地方公共団体、地域、学校、家庭、民間団体、民間企業などがそれぞれの立場で自らの役割を適切に果たし連携して**社会総ぐるみで、人づくりの“原点”である体験活動の機会を意図的・計画的に創出していく**ことが必要です。

~「令和元年度版　子供・若者白書（内閣府）」より~

【図1】
学校以外の団体などが行う自然体験活動への参加率



【図2】
自然体験と自己肯定感、道徳感・正義感との関係



子どもたちの体験活動を地域全体で支えていくことは、子どもの自己肯定感等を高めるとともに、子どもの地域への愛着や貢献意識を高めます。また、地域で子どもを育てる大人の意識の醸成や事業参画者の増加などをもたらし、ひいては「地域づくりを担う人づくり」につながっていくこととして期待されています。

今年度から、県内各地でより一層魅力的な体験活動を支援するため、県立青少年の家及び県立少年自然の家が「地域の体験活動支援事業」として事業を展開しています。体験活動を提供している社会教育施設の社会教育主事が、どのように県内各地域の体験活動を支援しているかを紹介します。

「地域の体験活動支援事業」について ～島根県立青少年の家・島根県立少年自然の家～

■目的

・島根の教育資源を生かした体験活動の普及啓発を図る。
・子どもたちが、島根の人や自然と深く関わり、地域への愛着や貢献意識を高めるために、公民館等が学校や地域住民などの協力を得て行う宿泊や日帰りの体験活動を支援し、地域を担う人づくり推進の一助とする。

■内容

・公民館等が学校や地域住民などの協力を得て実施する日帰りや宿泊を伴うキャンプ、通学合宿等の体験活動に対して、関わる方の支援の在り方やプログラム内容などに支援・助言を行う。
・公民館等の職員研修や保護者説明会などにおいて、体験活動の意義や安全管理などについて研修を行う。

今年度の「地域の体験活動支援事業」は、次頁の２事例以外にも松江市、安来市、出雲市、美郷町、邑南町で実施しています。参加されたたくさんの方々に体験活動のよさが伝わっていったように感じています。そこからさらによりよい体験活動の輪が広がり、少しでも多くの島根の子どもたちが、島根の人や自然と深く関わり、ふるさと島根への愛着や貢献意識を高めていけるよう、今後も支援を続けていきます。

来年度の詳しい事業内容は、４月に入ってからチラシ等でお知らせします。ぜひ、青少年の家及び少年自然の家までご連絡ください。

～体験活動が子どもをかえる・地域をかえる～

【事例１】隠岐の島町教育委員会

「関わる大人の意識を変える！」

隠岐の島町教育委員会では、「体験活動指導・支援者養成講座」を開催し、スキルアップした指導・支援者が町内各地でより質の高い体験活動を展開してきました。今年度はより専門性の高い講座にするために、隠岐の島町教育委員会担当者と青少年の家社会教育主事が検討を重ねていきました。

■支援の実際
担当した講座内容　①講義「体験活動の意義と支援」
②講義・演習「リスクマネジメント」

■支援後の様子
講座後、隠岐の島町で開催された１泊２日の宿泊体験活動では、講座参加者がスタッフとして関わり、テントの立て方や自転車走行時の支援を実際に行いました。講座の中で学んだことを生かしながら、子どもたちに対して丁寧に指導・支援する姿が見られました。

青少年の家社会教育主事が関わることで、参加者の方々が事業のねらいや目的をより一層意識しながら活動していく様子が見られました。また、リスクマネジメントの専門的知識を習得することで、活動内容の充実や安全性の向上が図られていました。

魅力ある体験活動にするための支援例

【事例２】浜田市金城町小国公民館

「地域の方のアイデアをプログラムに生かす」

浜田市金城町小国地区では、毎年、公民館主催の「おぐにふるさと学校」を実施しています。今年度は、公民館からの「新たな試みとしてキャンプファイヤーがしてみたい」という思いを受け、公民館と浜田市派遣社会教育主事、少年自然の家社会教育主事が検討を重ねていきました。

■支援の実際
事前打ち合わせ会の実施（２回）
内容①「おぐにふるさと学校」のねらいや内容の共有
②新プログラム「キャンプファイヤー」の定義や準備物、進め方、役割分担、安全面の配慮等の説明及び確認

■支援後の様子
１泊２日の「おぐにふるさと学校」の夜にキャンプファイヤーが実施されました。材料は地元のものを使い、子どもたちが中心になり準備を行っていました。地域の方のアイデアや支援がプログラムを盛り上げていました。振り返りの中では、子どもたちが薪割りなど準備から取り組んだことで、活動への目的意識をもつことができ、それが達成感や満足感にもつながったという意見を聞くことができました。

検討を重ねたことで、地元の人やものを見い出し活用するなど、「おぐにふるさと学校」ならではのキャンプファイヤーが創り上げられている様子が伺えます。

2つの事例から、ねらいをしっかりと把握して臨むことや、事業プログラムの内容をより充実させる視点をもつことで、魅力ある体験活動が生まれ、参加者や参画者の満足度の向上や、意識変容を期待することができます。社会教育施設の社会教育主事の専門性を活かすことで既存の体験活動を見つめ直し、新しい風を起こしていきましょう。

しまねの社会教育フォーラム2019

「地域づくりを担う人づくり」に向き合う“しまねの社会教育実践者”を目指して

オープニングトーク・講演・全体総括

志々田 まなみ 氏　（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）

しまねの「地域づくりを担う人づくり」を進めるために大切にしたいこと
～「学びと活動の好循環」の観点から～

オープニングトーク

「人生100年時代」にすべての人が元気に活躍し、安心して暮らすことができる社会に必要なものとは何でしょうか？ それは、３つの見えない資産です。

生産性資産
（仕事に役立つスキルや知識
人間関係）
スキルや知識よりも、コネ、人脈、信頼が重要。

活力資産
（肉体的・精神的幸福感と充実感）
自分のことを支えてくれるような人、特に年下の友人が大切。

変身資産
（自分が変わることを支える人脈、自己教育力）
多様な人々とつながり、情報網をもつ。面倒くささをいとわない。

「変わることができる」力が、今、求められている。⇒ 変わるためには、**非認知能力**（目に見えないチカラ）が必要
自分を変えることができる**変身資産**や**自己教育力**を高めてほしい！

社会教育は、体験的な学びを通じ**他者と関わろうとするチカラ**に働きかける役割をもっている

講演・全体総括

非認知能力を**社会的情緒的能力**といい、大きく４つの力がある。

社会的情緒的能力

目標に向かって頑張るチカラ
・勤勉性　・粘り強さ
・先を見通す力

人とうまく関わるチカラ
・協調性　・思いやり
・言葉でうまく表現する力

大人になってからでも目標があれば伸びる力

環境や社会の安定性が大きく関わる力

感情をうまく制御するチカラ
・おちつき　・寛容さ
・ストレス発散力

他者や外界に関心を向けるチカラ
・好奇心　・明るさ
・社交性　・積極性

大人になってからでは伸びにくい力

地域ぐるみで！社会教育で！

●非認知能力が高い子は、認知能力を高めていくことができる。今、子どもたちに伸ばしていかなければならない力は**『他者や外界に関心を向けるチカラ』**である。そのために、社会教育はぴったり。変身資産としてもこの力はとても重要。
●答えのない問いについて話し合うためには、多様な人間が集まり、多様な価値の中で悩みながら答えを見つけ出していくことが大切。これが、「社会に開かれた教育課程」である。

意見交換

「オープニングトーク」や「実践発表」を聞いて心に残ったことや、話し合いたいこと等をもとに、**『えんたくん』**※を使った意見交換が行われました。参加者それぞれが積極的に意見を出し合い、今後の実践で大切にしたいことやできることについて考えました。

※直径1メートル程の円形段ボール板に、クラフト紙を重ねたもの。
円座になって膝の上に乗せるなどして使い、会話しながら自由にメモを取ることができる。

参加者の意見がぎっしりと書き込まれました。

「しまねの社会教育フォーラム2019」（主催：島根県教育委員会）が、令和元年11月23日(土)に島根県立青少年の家「サン・レイク」で開催されました。県内各分野で幅広く連携しながら「地域づくりを担う人づくり」を進めている実践や参加者同士の議論を通じて、社会教育の“学び”の重要性を明らかにすることにより、参加者が「学びと活動を好循環させる」ことの大切さに気づきました。そして、現在行っている活動の質を向上させたり、さらなる当事者意識や実践意欲を高めたりする場になりました。

実践発表

“わたしのまち”で生き生きと暮らすために
江木　眞由美　氏
（浜田市立石見公民館・主事）

高齢者を対象とした、学びと活動の好循環を目指した公民館講座

【公民館の仕掛け】
- 参加者同士の交流で仲間づくり
- **自信が持てるステップアップの場**
  （地域デビュー応援講座⇒本を読んで元気になる講座⇒読み聞かせサークルの誕生）
- 活躍できる場（学校、公民館、図書館など）
- 地域貢献の価値に気づく
- 介護予防の視点も加えて

【参加住民の変容】
地域貢献　　さらなる活躍の場
生きがい　　元気な高齢者　など

【講師コメント】「はまだっ子共育」は、公民館が地域と学校をつなぐ窓口として効果的な役割を果たしている全国的にも珍しい取組。やる気にさせる動機づくりの工夫をしている。

「まち全体が学びの場」をめざして
石倉　美生　氏
（津和野町教育委員会・教育魅力化コーディネーター）

生き急いでいた自分
↓
教育魅力化コーディネーターとしての経験
- 「0歳児からのひとづくりプログラム」の推進
- 時間に追われ、独りよがりな行動での数々の失敗

3S(Slow,Small,Simple)の大切さに気づく
◆ゆっくり振り返る時間が大切
・早く結果を出さない・1回寝かせる・対話を大切に
↳ **◆学びの循環を生む**
・関係性、共有ができる・頑張れる仲間
◆小さいことでも確実に動く
◆目的をシンプルに考える

ゆっくりと人との会話が楽しめるまちへ
（まずは自分からゆとりを）⇒100年幸せに生きる

【講師コメント】プログラムを核とした、0歳児からのひとづくり戦略は、私たちの未来はもっと幸せになっているだろうと想像できるまちづくりを目指すもの。「急がない」という価値に共感。

参加者の声

- 志々田先生のパワー、江木さんのしかけ、石倉さんの3S(スリーエス)等、学びや気づきの多い会でした。他者に関心を持つことのできる力をつけられるような取組、「学びほぐし」にもチャレンジしていきたいと思いました。
- 全体を通じて、持って帰るべきキーワードに多く出会うことができました。未来は幸せになれると信じることのできる「市」につながる施策を創生したいと思いました。
- オープニング、実践発表とも「うん、うん、そうそう。」とうなずいている自分。すごく勉強になりました。参加してよかったです。みなさん、それぞれいい考えを持っておられる老若男女。住みやすい島根で、健康で楽しく、100歳を迎えられるといいなあ。一日楽しかったです。
- 「えんたくん」は温かくておもしろかったです。自館から出て人と話すことの大切さに改めて気づきました。ありがとうございました。楽しかったです。
- 島根の方々の笑顔いっぱいな会にまず心ほぐされました。そして学びの多い会でした。島根の風に触れに来て大正解でした。知らない人と出会い、新たな発見!! 実行できました。ありがとうございました。また来ます。
- もっと多くの方に参加していただくにはどうすればいいのでしょうか。学校関係者にも参加してほしいです。

主催者より

中央教育審議会答申（平成30年12月）で示された、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」や「学びと活動の好循環」を大切にするということは何も新しいことではありません。おそらく、島根県の社会教育実践者の皆様が普段から意識して取り組んでいらっしゃることでもあるのではと思います。

本フォーラムにご参加の皆様方それぞれが「学びと活動を好循環させる」ことの大切さに気づき、現在行っている活動の質を向上させたり、さらなる当事者意識や実践意欲を高めたりしていただければ幸いです。

学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

KEEP RUNNING！ ～走り続ける社会教育行政マン～

益田市教育委員会　社会教育課　主任主事　豊田　浩司さん

豊田さんは益田市教育委員会社会教育課に勤務して３年目。平成30年度に社会教育主事講習[B]を受講されました。この講習が、社会教育行政マンである豊田さんのどんなチカラにつながったのか、お話をうかがいました。

■社会教育主事講習[B]での学び

生涯学習概論や社会教育計画、社会教育特講といったいわゆる“座学”で講義を受けたり、事例を聴いたりする際は、自分の業務と絡めながら聞くことを心がけていました。そうすることで「やっぱりこれでいいんだ。」と自信を深めたり、「こうした方がより良いかも…。」と**より広い視野で考えたりすることができました。**

そうした座学での学びも大きかったのですが、それ以上に得るものが多かったのは、社会教育演習で他の受講者と考えをすり合わせながら事業の立案を行ったことです。今まで、課内の同僚や派遣社会教育主事と話をしながら事業を進めていくことは、当然多かったのですが、その先の現場にいる公民館主事やコーディネーターの皆さんとお話をすることはそれほど多くはありませんでした。**現場で頑張っておられる皆さんの思いや願い、困り感を直接聞きながら事業計画を考えたことは、今の業務に確実に生きています。**

実際の事業には予算が絡んできますのでもっとシビアですけどね…（笑）。

■すべての行政職員に社会教育のマインドを！

実際に演習では、私のような行政担当者の発想と、現場の感覚をもっている人との発想が融合しあい、グループの事業計画は、実効性のある良いものにどんどんとブラッシュアップされていきました。その人の思いを知り、それぞれの“やってみたい”をつなげる、社会教育主事としてのコーディネート能力の重要性を学ぶことができました。

今現在、私が社会教育主事の発令を受けているわけではありませんが、そのコーディネートのチカラって、**行政にかかわる人全てが身につけるとよいもの**なのかなって思います。特に若い職員には、早いうちにこの“社会教育（のマインド）”に触れるといいですよね。

「こんなに名刺がなくなる課（職場）は役所の中でも珍しい！」と語った豊田さん。社会教育主事講習[B]を通して学んだコーディネート力は、他課・他部局との連絡調整でも生かされているそうです。

ランニングが趣味の豊田さん。社会教育行政マンとしての“走り”は社会教育主事講習[B]を経て、より力強くなっているようです。

わがまちの社会教育の実践紹介

奥出雲町

つながる奥出雲 ～人づくり、地域づくりによる持続可能な町づくり～

奥出雲町社会教育委員の会　会長　田中　靖子

奥出雲町社会教育委員の会では、平成29年度から２年間をかけ提言書づくりに取組みました。毎年10回近い協議を重ね、奥出雲町の豊かな自然の中で、未来に希望をもつ子どもたちが育つためには、「人づくり・地域づくり」が大切であり、それを支えるのは「つながり」であるという考えに至りました。そして、地域の多様な人材を巻き込むソーシャルキャピタルの構築等を織り込む提言書「つながる奥出雲」を作成し、教育委員会への提言はもとより、社会教育委員自らが一歩を踏み出す指針としています。

その一例として、毎週土曜日に開催している安養寺サタデースクールの活動を紹介します。

今年、地域の多様な人材を巻き込んでお寺の裏山にツリーハウスを造りました。「２階建てがいいな、ハンモックも、階段やはしごも、庭にはブランコやゆらりもほしい。」子どもたちのアイデアはどんどん膨らみます。地域の人から「はで木」をもらい、大工さん、高校生、専門学校生、保護者など様々な人たちが子どもたちとつながることで、夢の遊び場が完成しました。

ツリーハウス造り

ハンモックで遊ぶ子どもたち

提言書は、「せっかく選ばれたのだから何か形に残るような活動をしよう」という委員の社会教育に対する思いの結晶です。ざっくばらんに意見を交わし、いつも賑やかで中身の濃い協議を重ねてこられました。さらに、できることから始めようと、委員自らそれぞれの立場で「人づくり」に向けて取り組んでおられます。まさに、社会教育流儀を地で行く社会教育委員です。
（出雲教育事務所　奥出雲町派遣社会教育主事）

西ノ島町

やってみたいをカタチにできる場“いかあ屋” ～新しい図書館の在り方について～

西ノ島町教育委員会　派遣社会教育主事　木下　浩秋

平成30年７月、西ノ島町に完成した「西ノ島町コミュニティ図書館（愛称：「いかあ屋」）」は、「コミュニティ」の名の通り、地域コミュニティの拠点としての役割を期待されています。また、そこに集まる人々の主体的な活動のきっかけづくりとなることもねらっています。

このねらいのもと、コミュニティ図書館では定期的に「縁側カフェ（参加型ワークショップ）」が開催され、「図書館でできたらいいな」と思うことや「やってみたい」と思うことについて、自由に話し合っています。話題に上がったアイデアは、図書館職員や公民館職員の支援を得たり、図書館と協働する有志のサポーター「いかあ屋応援団」の協力を仰いだりしながら、実現に向かいます。

現在は、「図書館」というテーマに基づいた活動に限られていますが、いずれは、参画することの楽しさを知った住民の取組が、町全体に広がっていくことを期待しています。

縁側カフェの様子

いかあ屋応援団作製のイルミネーション

図書館建設計画段階から住民参加型の集まり（縁側カフェ）が開催されており、図書館機能だけでなく住民の活動拠点として、とてもすてきな空間となっています。

何かをしてもらう側から、何かをする側へと意識が変化している「いかあ屋応援団」の皆さん。集い、動くことの楽しさを知る仲間がさらに増え、地域づくりを担う人が増えることが期待されます。
（隠岐教育事務所　社会教育スタッフ企画幹）

親学の今！［出雲市］編

出雲市では、ファシリテーターの会と教育委員会が連携し、“好循環”する仕組みをつくっています。
今回は、その取組について紹介します。

出雲市では、家庭教育支援の充実のため、親学プログラムを活用しています。その際、市内のファシリテーターで構成した「親楽ファシリテーターの会出雲」の方々が、保護者研修会等で意欲的に活動しています。このファシリテーターの会は、教育委員会と連携しながら、自立・自走できる組織を目指しています。また、親学プログラムは、学校だけでなく地域でも取り組まれ、活動が地域に根付いてきています。

◉ファシリテーターの会が養成講座に参画！

出雲市では、この３年間で親学ファシリテーター養成講座を４回開催しました。そのうち２回は親学プログラム２も行い、計画的にファシリテーターを養成しています。また、地域のファシリテーターのみなさんがスタッフとして養成講座に参画することで、人材育成の好循環が生まれています。

◉ファシリテーターの会の月例連絡会を実施！

出雲市教育委員会では、毎月「親楽ファシリテーターの会出雲」を中心としたファシリテーターの皆さんと教育委員会の担当者で、連絡会を行っています。そこでは、実施された研修会の報告や今後の活動の確認、アイスブレイク研修などを行っています。活動を振り返ることにより、悩みを共有したり、解決策について話し合ったりして、お互いのスキルアップを図っています。また、連絡会を通して、ファシリテーター同士の親睦を深めています。

◉PTAと地域が連携し、研修会をシリーズ化！

西田地区では、小学校を中心として親学プログラムを使った講座をシリーズ化しています。この講座は、家庭・地域・学校が一緒になって学び合いたいと始まりました。講座は年３回行われ、参加した地域の方にも、好評を得ています。

西田家庭教育支援講座だより

令和元年９月３０日
NO８
担当　山川　修司

第 14 回西田家庭教育支援講座を開催！

９月１９日（木）に西田コミュニティセンターを会場に第１４回目の「西田家庭教育支援講座」を開きました。この講座は、平成２７年度より西田小学校の子どもたちの健やかな成長を願い、大人（親）としてどのようなかかわり方をしていけばよいのかを家庭・地域・学校が一緒になって学び合おうと始まった講座です。

第１４回目となる今回の講座は、テーマ『すてきな子育て』と題して、「日々の子育ての中で、イライラすることやストレスを感じる子ともありますが、子育てのすてきな思い出を紹介し合う中で、楽しく子育てしていこうとする意欲を高めること」をねらいとした講座でした。

出東地区では、コミュニティセンターの子育て部と小学校 PTA 家庭教育部が連携した「子育ての集い」が毎年行われています。その中で親学プログラムが活用され、地域の家庭教育支援の充実につながっています。

毎月の連絡会や養成講座への参加・参画による、地域のファシリテーター同士のつながりを大切にしています。そして、出雲市内の多くの場所で、親学プログラムを通して子育てについて話してもらう機会を作っていきたいです。

東部社会教育研修センター
〒691-0074 出雲市小境町1991-2　サン･レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第31号は9月末発行予定

この印刷物は古紙パルプの用紙を使用しています。